

第三級海上特殊無線技士試験問題

無線工学

(注) 次の各問題の記述について、正誤のいずれかを選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

1. 周波数が高くなるほど、波長は短くなる。
2. 音声信号電流は直流である。
3. 電圧の単位はボルト、電流の単位はアンペアを用いる。
4. 超短波(VHF)帯の電波を用いる通信では、主として直接波が利用される。
5. 無線電話送受信装置において、プレストークボタンを押すと自動的に受信状態になる。
6. 送信アンテナは、電波を空中に放射する働きをする。
7. 容量(10 時間率)が 100 [Ah] (アンペア時)の充電済み蓄電池は、10 [A] の電流を連続して 10 時間流すことができる。
8. 電離層の状態は、昼間と夜間又は季節等によって変化しない。
9. FM(F3E)受信機は、入力信号がないとき、スピーカから雑音を発する。この雑音を消すため、スケルチ調整つまみを使用する。
10. 船舶用レーダーは、距離レンジを切り替えたとき、距離目盛りの大きいレンジほど測定誤差が小さい。